

「女性発・地域元気力『わくわく』プラン」第6回策定委員会 開催結果について（報告）

1 日 時 平成17年7月31日（日）午前10時～正午

2 場 所 京都弥生会館 朱雀の間

3 出席者

織田委員、モナト委員、清水委員、遠山委員、伊庭委員、河村委員、吉田委員、上杉京都府男女共同参画審議会会長

4 概要

（1）プラン案の説明

（2）委員の意見交換等

<全体の構成>

<1 プラン策定の趣旨>

<2 地域を取り巻く現状と女性のチャレンジ>

女性がチャレンジするには、地域づくりの場が有効という流れにした方が良い。

女性が活躍の場がないことと地域で女性の力が求められていることを記載してはどうか。

（座長コメント）

女性がチャレンジしているが、活躍の場がない。地域の場はチャレンジに有効である—という流れで整理し直すこととする。

<3 課題と施策の基本方向>

（1）チャレンジの芽生え・立上げ期

（2）継続・成長期

課題と施策の基本方向の書きぶりが、地域づくりに重点が置かれているので、女性のチャレンジに重点を置いたほうがよい。

（3）地域特性への配慮

団体、グループ間の地域を超えた連携と交流による活動の活性化、広域振興局のパワーアップと府女性総合センターとのネットワークの構築などに項目を分けて記述してはどうか。

情報の発信の前提は受信できること。基本的な情報インフラの整備が地域特性への配慮につながる。

（4）支援体制の整備

市町村行政の力が出る展開が必要ではないか。

4 重点施策

地域わくわくデータベースの整備

双方向性のデータベースは投資対効果で考えると、作成と管理に膨大な労力を必要とする割に使われていないのが現実。既存のデータベースを有効活用する工夫をすべきではないか。

管理主体が行政だとうまく進まない。管理する人が重要である。

ご近所発・情報ネットの整備

情報掲示サポータというのは、ITの活用によりコストを削減し、ステッカーを授与することにより知り合いベースだけではなく、情報を掲示して貰えるところを作るといった仕組みづくりである。

情報を置いてくれる人だけでなく、届けてくれる人も募集してはどうか。掲示スペースを持つ人と情報を発信したい人をつなぐ人がいれば広がる。

仕組みづくりのモデル事業を実施してモニタリングを実施すればよいのではないか。

既に実際にやっている。スーパー、個人店主のコンビニ、郵便局に協力いただいている。

府で取組を推進することとし、例えばチェーン店の本部にまとめて了解を取ることができれば府全体で進む。

(座長コメント)

府全体に広がれば効果的。府内全域で展開できるよう書き込むこととする。

地域起業家の発掘と養成

地域リーダー、起業家という言葉がでてくる中で、「地域起業家」の意味するところがわかりにくい。

起業家のマインドとスキルを地域に活用する者であって、起業家ではない。

発掘と養成は別。すでに地域の活動をしている人に地域のリーダー的活動をしてもらう方策がいる。

発掘や養成ではなく、地域の活動をしている人が互いに出会い、発見し合うような仕組みがいる。

地域起業家・起業家等表彰制度

(座長コメント)

地域起業家・起業家等表彰制度の「表彰」は古いイメージになるので、「発表の場の提供」とか「社会的評価制度」といった表現ではどうか。「ロールモデル」とともに表現を再度検討することとする。

府事業の地域開催の拡充

既に実施している事業あるので、地域開催の「検討」ではなく「拡充」とし、併せてどのような事業をするのか、市町村とのタイアップの仕方などをもう少し記述すべきではないか。

(座長コメント)

基本的方向の部分と併せて再検討することとする。

5 その他

プランの名称が長いので愛称をつけてはどうか。

(3) 今後の進め方

本日の議論をもとに案を修正し、次回委員会において、中間案を決定する。

(4) 今後の日程

次回 平成17年9月 4日(日)午前10時から正午 京都弥生会館

以 上